

単元	I 体づくり運動I (体ほぐし・多様な動き)		4月 (3時間)
目標	きまりを守って友達と仲よくしながら、多様な動きのポイントを見つけて、用具を操作する運動や体のバランスをとる運動などができる。		
評価規準	(①知・技)体のバランスや移動、用具の操作の行い方を理解し、それらを組み合わせた動きができる。 (②思・判・表)よい動きを見付けたり、自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。 (③主体的態度)きまりを守り、互いに励まし合って、用具の安全を確かめながら進んで運動に取り組もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	I	○試しの用具を操作する運動やバランスをとる運動を行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて _____ いろいろな動きに挑戦し、ボールやフラフープを操作したり、バランスをとったりしよう	○体づくり運動で挑戦する運動の見通しをもてるように、試しの時間を十分確保する。
追究する	I	○ボールやフラフープを投げてキャッチするなどの用具を操作する運動や2人組でボールをはさんで立つなどのバランスをとる運動に挑戦する。	○互いの動きを見合うことができるように、ペアや兄弟グループを編成する。
まとめる	I	○これまでの運動を組み合わせ、発表会を行う。	○用具を操作する運動やバランスをとる運動やそれらを組み合わせた運動ができるように、繰り返し取り組む機会を設定する。
【備考】 ・集団行動は、各単位時間に位置付け、定着できるようにする。 ・グループ編制は、運動能力や体格(体重)が同じくらいの児童で組めるようにする。 ・準備体操は、体育部で全学年共通のものを提示する。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇**試しの体づくり運動に取り組む、用具の操作やバランスをとる運動をできるようにするなど、具体的な自分のめあてを記述している。**
 <学習プリント③>

◇**友達のバランスを取る動きのよさを発言したり、例示した動きの組み合わせ方から選んだりしている。**
 <発言・学習プリント②>

◇**ボールやフラフープを投げ上げて移動しながらキャッチする動き、ボールをはさんで立つ動きをしている。**
 <行動①>

単元	2 かけっこ・リレー		4・5月(5時間)
目標	きまりを守って仲よくし、走り方やバトンパスの仕方を工夫しながら、調子よく走ったり、タイミングよくバトンパスをしたりして、かけっこ・リレーができる。		
評価規準	(①知・技)75mを調子よく走る動き、低い姿勢でスタートしタイミングよくバトンパスをする行い方を理解し、走ったり、バトンを受け取ったりすることができる。 (②思・判・表)バトンをもらう姿勢や受け取り方のポイントを見付けている。 (③主体的態度)安全に気を付け、きまりを守って仲よくかけっこ・リレーをしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しの75m走の個々のタイムや全員リレーのタイムの計測をし、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて リレー大会へ向けて、走り方やバトンパスの姿勢のポイントを見付けて、かけっこ・リレーをしよう	○かけっこやリレーを工夫していく具体的な見通しがもてるように、「できるようになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。
追究する	2	活動① ○バトンを受け取る姿勢のポイントを見付け、試行する。	○バトンを受け取る動きのポイントを踏まえたリレーに挑戦する。
	1	○バトンを受け取る動きのポイントを見付け、試行する。	○バトンを受け取る動きのポイントを踏まえたバトンパスができるように、挑戦しているところを互いに見合い教え合う機会を設定する。
まとめ	1	○記録会で今までのポイントを踏まえたリレーに挑戦し、友達のよい動きや頑張りを認め合い、学習のまとめをする。	○かけっこ・リレーの学習の成果を感じられるように、「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「かけっこ・リレーの楽しさ」という振り返りの視点を提示する。
【備考】 ・準備：バトン、ビブス、コーンなど			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇試しのかけっこ・リレーに取り組み、バトンパスを上手にできることなど、具体的な自分のめあてを記述している。
 <学習プリント③>

◇腕の位置を高くすることや走る方向を見ることなどのバトンをもらうための姿勢のポイントを記述している。
 <学習プリント②>

◇低い姿勢でスタートしタイミングよくバトンを受け取る行い方を理解し、リレーをすることができる。
 <行動①>

◇調子よく走り、スピードを落とさずに脇を締めて肩の高さへ挙げて受け取る行い方を理解し、リレーをすることができる。
 <行動①>

◇リレーのバトンパスをしている友達の動きのよさを記述している。
 <行動・学習プリント③>

単元	3 跳び箱運動		5月(7時間)
目標	互いに励まし合い、動きのポイントを踏まえ自分の課題を見付け、課題に合った練習方法を選び繰り返し練習して、かかえ込み跳び、大きな台上前転、首はね跳びができる。		
評価規準	(①知・技)かかえ込み跳び、大きな台上前転、首はね跳びの行い方を理解し、かかえ込み跳び、首はね跳びができる。 (②思・判・表)かかえ込み跳び、大きな台上前転、首はね跳びの動きの中で踏み切りや着手、空中姿勢のポイントを踏まえ、目標とする動きと取り組んだ動きを比べ自分の課題を見付け、課題に合った練習方法を選んでいる。 (③主体的態度)グループでアドバイスし合い、安全に気を付けながら、かかえ込み跳び、大きな台上前転、首はね跳びに取り組もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しの跳び箱運動(技調べ)を行い、共通のめあてと自分のめあてを立てる。 共通のめあて 4の○跳び箱演技会に向けて、ポイントを見付けて練習し、かかえ込み跳び、大きな台上前転、首はね跳びがきれいにできるようになる。	○演技会に向けて具体的なめあてを立てられるように、「できるようになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。
追究する	1	○かかえ込み跳びの動きのポイントを踏まえ、自分の課題を見付ける。	○かかえ込み跳びの課題を焦点化できるように、かかえ込み跳びの動きのポイントを意識しながら繰り返し試す時間を確保する。
	1	○自分の課題に合った練習方法で、かかえ込み跳びに取り組む。	○かかえ込み跳びの動きを評価することができるように、かかえ込み跳びの動きを段階的に示した動きの基準を提示する。
	1	○大きな台上前転の動きのポイントを見付け、大きな台上前転に取り組む。	○大きな台上前転の動きを評価することができるように、大きな台上前転の動きを段階的に示した動きの基準を提示する。
	1	○首はね跳びの動きのポイントを踏まえ、自分の課題を見付ける。	○首はね跳びの課題を焦点化できるように、首はね跳びの動きのポイントを意識しながら繰り返し試す時間を確保する。
	1	○自分の課題に合った練習方法で、首はね跳びに取り組む。	○首はね跳びの動きを評価することができるように、首はね跳びの動きを段階的に示した動きの基準を提示する。
まとめる	1	○「4の○跳び箱演技会」で今までのポイントを踏まえ、かかえ込み跳び、大きな台上前転に取り組む、学習のまとめをする。	○かかえ込み跳び、首はね跳びの学習の成果を感じられるように、「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「跳び箱運動の楽しさ」という振り返りの視点を提示する。
			◇かかえ込み跳び、首はね跳び、大きな台上前転に取り組む、試した感想や自分の課題を基にした具体的なめあてを記述している。 <学習プリント③>
			◇かかえ込み跳びの目標とする動きと比較したことを基に、自分の課題を記述している。 <学習プリント②>
			◇脚を抱え込んで跳び箱を跳ぶことができる。 <行動①>
			◇台上前転で回転の終末で脚を伸ばすことができる。 <行動①>
			◇首はね跳びの動きのポイントを踏まえ、自分の課題を記述している。 <学習プリント②>
			◇背中が跳び箱についたら腕と腰を伸ばして体を反らせることができる。 <行動①>
			◇かかえ込み跳び、大きな台上前転、首はね跳びをしている自分や友達の動きのよさを記述している。 <学習プリント③>

単元	4 ミニハードル走		5・6月 (6時間)
目標	ミニハードル走に安全に気を付けながら進んで取り組み、「タ・タ・タ・タン」のリズムでミニハードル走をすることができる。		
評価規準	(①知・技)「タ・タ・タ・タン」のリズムで、連続した3台のミニハードルを走り越えたり、着地した後の一步目を速く出したりする行い方を理解し、ミニハードル走ができる。 (②思・判・表)「タ・タ・タ・タン」のリズムで走り越える動きや、ミニハードルを走り越えて着地した後の動きのポイントを見付けている。 (③主体的態度)ミニハードル走に進んで取り組み、ミニハードル走の行い方やきまりを守ったり、ミニハードルの安全な使い方に気を付けたりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しのミニハードル走を行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて 記録会に向けて、ミニハードル走のポイントを見付けて、ミニハードルを走り越えよう	○ミニハードル走での動きを身に付けていく具体的な見通しがもてるように、「できるようにになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。
追究する	2	活動① ○リズムよく走り越えるポイントを見付け、試行する。	○ミニハードルのインターバルの歩数に着目できるように、試技者と観察者の役割を決める。 ○ミニハードルのインターバルを「タ・タ・タ・タン」のリズムで走り越えることができるように、「タ・タ・タ・タン」のリズムで走っている映像や手本を提示する。
	2	○走り越えて着地した後の動きのポイントを見付け、試行する。	○ミニハードルを走り越えた後の動きのポイントを焦点化できるように、着地後の動きを観点として提示する。 ○目標とする動きと取り組んだ動きを比較することができるように、走り越えて着地した後の一步目を速く出している映像と音声を提示する。
まとめる	1	○記録会を行い、今までのポイントを踏まえたミニハードル走に挑戦し、友達のよい動きや頑張りを認め合い、学習のまとめをする。	○ミニハードル走の学習の成果を感じられるように、「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「ミニハードル走」という振り返りの視点を提示する。
【備考】 ・試しのハードル走では、インターバルを4.5m, 5m, 5.5m, 6m, 6.5mから選んで跳べるように設定する。 ・スタートからゴールの距離は40mとする。(スタートからはじめのミニハードルまで13mとする。) ・設置するミニハードルは、一つのコースに4台とする。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇試しのミニハードル走に取り組み、気付いたことや感想を基に、具体的な自分のめあてを記述している。
 <学習プリント③>

◇ミニハードルのインターバルを「ジャン・プ・1・2」のリズムで走り越えるというポイントを記述している。
 <学習プリント②>

◇「タ・タ・タ・タン」のリズムで1台のミニハードルを走り越える行い方を理解し、ミニハードル走ができる。
 <行動①>

◇走り越えて着地した後の一步目を速く出すというポイントを記述している。
 <学習プリント②>

◇ミニハードルを走り越えて着地した後の一步目を速く出す行い方を理解し、ミニハードルを走り越すことができる。
 <行動①>

◇ミニハードル走をしている友達の動きのよさや自分の頑張りを記述している。
 <学習プリント③>

単元	5 セストボール		6月(7時間)
目標	チームで協力し、作戦を選んだり、教え合ったりしながら、パスやシュートをしたり、サポートの動きをしたりして、セストボールができる。		
評価規準	(①技・知) ねらった方向へパスやシュートをしたり、守りのいない場所に移動したりする行い方を理解し、セストボールができる。 (②思・判・表) セストボールにおけるパスやシュート、サポートの動きのポイントを見付けたり、簡単な作戦を選んだり、チームの課題の解決のために考えたことを友達に伝えたりしている。 (③主体的態度) 規則を守り、互いに協力したり、勝敗を受け入れたりして公正にセストボールをしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しのゲームを行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて セストボール大会に向けて、パスやシュート、サポートの動きのポイントを見付け、友達と協力しながら練習しよう	○セストボールの中で取り組んでいく動きや学び方の見通しがもてるように、「できるようにになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。
追究する	1	○シュートのポイントを見付けて、ゲームに取り組む。	○シュートの動きのポイントに気付けるように、「目線」「膝」「ボールの軌道」の視点を提示する。
	1	○パスのポイントを見付けて、ゲームに取り組む。	○パスの動きのポイントに気付けるように、「パスの出し方」「守りの位置」の視点を提示する。
	1	○サポートの動きのポイントを見付けて、ゲームに取り組む。	○サポートの動きのポイントに気付けるように、味方と守りの位置」「味方の距離」の視点を提示する。
	2	○チームで作戦を選び、試行し、ゲームをする。	○チームの動きの達成度合を自覚できるように、作戦ボードでチームの動きを確認する時間を確保する。 ○パスやシュート、サポートの動きに関わるチームの作戦を選べるように、動きを視覚化できる作戦ボードやチームの作戦が記述してある作戦カードを用意する。
まとめる	1	○セストボール大会を行い、互いの頑張りを認め合い、学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように、「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「セストボールの楽しさ」という振り返りの視点を提示する。
【備考】 ・チームは、男女混合、等質の8グループを試しのゲームの様子や個々の運動能力などを基に編制する。 ・準備：コート3面、ソフトバレーボール、セストボール用ゴール、得点板、ビブスなど ・スペースとは、相手がいないボールが受けやすい場所			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇シュートを入れられるようになる、チームで作戦を立ててノーマークでシュートを打てるようになるなど、具体的なめあてを記述している。
<学習プリント③>

◇ボールを持ったらゴールを見る、膝をばねのように使う、ゴールにボールを山なりに打つなどの動きのポイントを記述している。
<学習プリント②>

◇守りの位置に合うパスの動きのポイントを記述している。
<学習プリント②>

◇守りのいない場所や3人の距離が近くない位置に移動している。
<行動①>

◇簡単な作戦を選び、繰り返し試している。
<行動①>

◇選んだ作戦で、パスやシュートを打つことができる。
<行動①>

◇セストボールにおける自分や友達の頑張りが仲間によさについて記述している。
<学習プリント③>

単元	6 鉄棒運動		7月(8時間)	
目標	互いに励まし合い、脇を締めるや顔を上げるなどの動きのポイントを見付けて、逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りができる。			
評価規準	(①知・技) 逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りの行い方を理解し、それぞれの技ができる。 (②思・判・表) 逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りの動きのポイントを見付けている。 (③主体的態度) 互いに励まし合い、安全に気を付けながら、逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りに挑戦しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○試しの鉄棒(技調べ)を行い、共通のめあてや自分めあてを立てる。 共通のめあて 逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りの動きのポイントを見付けて、逆上がり後方支持回転、こうもり振り下りをできるようにしよう	○逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りについて、工夫したい動きのめあてが具体的になるように、「できるようになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。	◇試しの逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りに取り組み、試した感想や具体的な自分のめあてを記述している。 <学習プリント③>
追究する	4	活動① ○逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りを試行し、動きのポイントを見付ける。 活動② ○逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りの動きのポイントを踏まえて挑戦する。	○逆上がりの動きのポイントが焦点化できるように、腕、脇という視点を提示する。 ○自分の課題に合った練習の場を決められるように、補助器や柔道の帯などポイントに応じた教具や場を用意する。 ○こうもり振り下りの動きのポイントが焦点化できるように、頭という視点を提示する。 ○脇を締めて後方支持回転の動きができるように、見本となる子どもの動きを基に、動きのポイントを伝え合う機会を設定する。	◇逆上がりで脇を締めるというポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇逆上がりの行い方を記述している。 <学習プリント①> ◇こうもり振り下りで頭を上げたり下げたりして振るというポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇後方支持回転の行い方を記述している。 <行動①>
	2	○今までのポイントを踏まえた逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りに挑戦する。	○自分に合った課題を意識して挑戦することができるように、これまでに見付けてきたポイントを踏まえた動きができていのかどうかを評価する活動を設定する。	◇逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りができる。 <行動①>
まとめる	1	○発表会で今までのポイントを踏まえた逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りに挑戦し、学習のまとめをする。	○逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りができた達成感を味わえるように「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「鉄棒運動の楽しさ」という振り返りの視点を提示する。	◇逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りをしている自分や友達の動きのよさを記述している。 <学習プリント③>
【備考】 ・安全確保のために、鉄棒の下にマットを敷いたり、補助したりする。 ・発表会は、これまで使った場や教具を用いるなど、個に応じて工夫してもよい。 ・準備：逆上がり練習器、踏切板、柔道帯など ・練習の場(易しい場)：逆上がり練習器の場、踏切板の場、跳び箱の場など ・試しでは、逆上がり、後方支持回転、こうもり振り下りを行う。				

単元	7 体づくり運動Ⅱ (体ほぐし・多様な動き)		8・9月 (4時間)
目標	きまりを守って友達と仲よくしながら、多様な動きのポイントを見つけて、用具を操作する運動や体のバランスをとる運動などができる。		
評価規準	(①知・技) 体のバランスや移動、用具の操作の動きの行い方を理解し、それらを組み合わせた動きができる。 (②思・判・表) 運動の行い方を知り、よい動きを見付けたり、自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。 (③主体的態度) きまりを守り、互いに励まし合って、用具の安全を確かめながら進んで運動に取り組もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しの用具を操作する運動やバランスをとる運動を行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて いろいろな動きに挑戦し、ボールやフラフープを操作したり、2人組でバランスをとったりしよう	○体づくり運動で挑戦する運動の見通しをもてるように、試しの時間を十分確保する。
追究する	1	○ボールやフラフープを投げてキャッチするなどの用具を操作する運動や2人組でボールをはさんで立つなどのバランスをとる運動に挑戦する。	○力量や体格の差によって活動にばらつきがないように、力量や体格が同じくらいのペアや兄弟グループを設定する。
	1	○体を移動する運動と用具を操作する運動を組み合わせた運動に挑戦する。	○それぞれの運動の行い方を知り、動きのポイントを見付けられるように、例示やそれらの動きのポイントになる観点を提示する。
まとめる	1	○発表会を行い、これまでの運動を組み合わせた運動をグループで考え、互いに挑戦し、頑張りを認め合って学習のまとめをする。	○用具を操作する運動やバランスをとる運動やそれらを組み合わせた運動ができた達成感を味わえるように、これまで身に付けてきた動きや互いに協力して頑張れたことなどを振り返る機会を設定する。
【備考】 ・集団行動については、各単位時間に位置付け、定着できるようにする。 ・グループ編制については、力量や体格(身長や体重)が同じくらいの児童で組めるようにする。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇試しの体づくり運動に取り組む、用具の操作やバランスをとる運動をできるようにするなど、具体的な自分のめあてを記述している。
<学習プリント③>

◇ボールやフラフープを投げ上げて、落下点に入ってキャッチする行い方を理解し、動きが身に付いている。
<行動①>

◇「かけ声をかける」や「用具を見る」という友達の動きからよい動きを見付けて、自分の運動に取り入れたり、組み合わせたりしている。
<行動・学習プリント②>

◇体づくり運動をしている友達の動きのよさを記述している。
<学習プリント③>

単元	8 運動会めざして		9月(5時間)
目標	みんなで仲よく、走り方やバトンゾーンの使い方、遊競技の動き方を工夫して、かけっこ・リレー、遊競技ができる。		
評価規準	(①知・技) 運動の行い方を理解し、バトンをもらって調子よく走ったり、タイミングよくバトンパスをしたり、遊競技をしたりすることができる。 (②思・判・表) 遊競技の動きのポイントを見付けている。 (③主体的態度) 安全に気を付け、きまりを守って仲よくかけっこ・リレー、遊競技をしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○運動会の学年競技の内容を知り、共通のめあてを立てる。 共通のめあて _____ みんなで仲よく、練習を工夫しながら、運動会練習を楽しもう	○運動会のリレーや遊競技での具体的なよい動きのイメージをもてるように、試しのリレーや遊競技をした後に気付いたことや感想を基に振り返る機会を設定する。
追究する	1	○リレーに挑戦する。	○リレーの動きのポイントができていないことを判断できるように、タブレットPCを用意する。
	1	○遊競技(綱引き)の内容を知り、動きのポイントを見付ける。	○綱引きの動きのポイントを焦点化できるように、重心や用具の位置などの観点を提示する。
	1	○遊競技(綱引き)に挑戦する。	○重心移動や用具の操作ができるように、重心の位置がよくできている児童の見本を基に、動きのポイントを伝え合う機会を設定する。
まとめる	1	○運動会リハーサルで、今までのポイントを踏まえた遊競技に挑戦し、学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように「できるようになったこと」「自分や友達の頑張り」「運動会をめざすことの楽しさ」という振り返りの視点を提示する
【備考】 ・準備：綱、バトン、コーン、タブレットPCなど ・R2は感染症対策のため、段ボール運びリレーを行った。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇運動会の学年競技の内容を知り、バトンパスの手の位置や綱を引く体勢など、具体的な動きについて学習プリントに記述している。
 <学習プリント③>

◇バトンパスの行い方を低い姿勢でタイミングよくスタートし、スピードを落とさずバトンを受け取ることを理解し、動きができる。
 <行動①>

◇重心を低く移動するなどの遊競技の動きのポイントを記述している。
 <学習プリント②>

◇綱引きの行い方を理解し、重心を低く綱をひくことができる。
 <行動①>

◇遊競技の道具を低い姿勢で引いている友達の動きのよさを学習プリントに記述している。
 <学習プリント③>

単元	9 高跳び			9・10月(5時間)
目標	安全に気を付けながら進んで取り組み、「タン・タン・タ・タ・ターン」のリズムで高跳びをすることができる。			
評価規準	(①知・技) 高跳びの行い方を理解し、「タン・タン・タ・タ・ターン」のリズムで、振り上げ足を腰の高さへ上げて、高跳びをすることができる。 (②思・判・表) 「タン・タン・タ・タ・ターン」のリズムで高く跳ぶ動きや、振り上げ足を腰の高さへ上げる動きのポイントを見付けている。 (③主体的態度) 高跳びに進んで取り組み、高跳びの行い方やきまりを守ったり、高跳びの安全な使い方に気を付けようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○試しの高跳びを行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて _____ 高跳びのポイントを見付けて、高跳びをリズムよく走り越えよう	○高跳びで挑戦する運動の具体的な見通しをもてるように、「できるようになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。	◇試しの高跳びに取り組み、リズムよく走ることなど、具体的な自分のめあてを記述している。 <学習プリント③>
追究する	1 1 1	○リズムよく跳ぶポイントを見付け、挑戦する。 ○振り上げ足の動きのポイントを見付け、挑戦する。 ○これまでのポイントを踏まえた動きで、高跳びに挑戦する。	○助走の動きポイントを焦点化できるように、リズムという観点を基に、互いの考えを伝え合う機会を設定する。 ○振り上げ足の動きのポイントを焦点化できるように、足の高さという観点を基に、互いの考えを伝え合う機会を設定する。 ○「タン・タン・タ・タ・ターン」のリズムや振り上げ足を腰と同じくらいの高さへ上げる動きのポイントをj知ることができるように、児童の動きを基に、動きのポイントを伝え合う機会を設定する。	◇高跳びの助走を「タ・タ」で速く小さく助走して跳ぶというポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇振り上げ足を腰と同じくらいの高さへ上げるというポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇「タン・タン・タ・タ・ターン」のリズムを保ちながら、振り上げ足を腰と同じくらいの高さへ上げることを理解し、跳ぶことができる。 <行動①>
まとめる	1	○記録会で今までのポイントを踏まえた高跳びに挑戦し、学習のまとめをする。	○高跳びの学習の成果を感じられるように、「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「高跳びの楽しさ」という振り返りの視点を提示する。	◇「タン・タン・タ・タ・ターン」のリズムで高跳びをしている友達の動きのよさを記述している。 <学習プリント③>
【備考】 ・毎時間計測をすることにより、意欲の継続化を図る。 ・準備：ミニコーン、踏切板、跳び箱の1段目、ポートボール台など ・練習の場：リズムよく走れるように目印を置いた場、滞空時間を長くできるように踏切板や跳び箱の頭を置いた場を設定する。 ・ドリル：つま先タッチ、ハの字またぎ、台からの着地練習など				

単元	10 かえる足泳ぎ		10・11月(8時間)
目標	きまりを守って友達と仲よくしながら、自分の課題を解決できるように練習の仕方を工夫して、かえる足泳ぎができる。		
評価規準	(①知・技)補助具を使ってかえる足のキックの行い方を理解し、面かぶりかえる足泳ぎができる。 (②思・判・表)自分の力に合った課題をもち、かえる足のつま先を外側へ向けるなどのかえる足泳ぎのポイントを見付けている。 (③主体的態度)友達と仲よく、プールのきまりを守って安全に水泳をしようとする。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しのかえる足をして共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて _____ かえる足のキックのポイントを見付けてかえる足で泳げるようになろう	○かえる足での動きを身に付けていく具体的な見通しをもてるように、「できるようになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。
追究する	6	活動① ○動きのポイントを見付け、試行する。 1・2時間目…かえる足 3・4時間目…補助かえる足 5・6時間目…面かぶりかえる足 活動② ○ポイントを踏まえた面かぶりかえる足に挑戦する。	○かえる足泳ぎの動きのポイントを焦点化できるように、動きのポイントになる足の向きや形を観点として提示する。 ○動きのポイントを踏まえたかえる足泳ぎができるように、互いの動きを見合う機会を設定する。 ○自分の課題に合った練習方法を知ることができるように、壁キックや水中ジャンプ、補助といった練習方法を例示する。 ○見付けたよい動きを見返せるように、防水用デジタルカメラを用いて、動きを確認する機会を設定する。
まとめる	1	○記録会で今までのポイントを踏まえた面かぶりかえる足に挑戦し、学習のまとめをする。	○かえる足泳ぎの学習の成果を感じられるように、「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「かえる足泳ぎの楽しさ」という振り返りの視点を提示する。
評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇試しのかえる足をして、気付いたことや感想を基に、具体的な自分のめあてを記述している。 <学習プリント③> ◇かえる足のつま先を外側へ向けるというポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇つま先を外側に向け、足首を返しながら水を蹴る行い方を理解し、かえる足ができる。 <行動①> ◇自分の課題に合った練習方法を選んでいる。 <行動②> ◇水中で臀部に足を引き付ける行い方を理解し、面かぶりかえる足ができる。 <行動①> ◇自分や友達の間かぶりかえる足の動きのよさを記述している。 <行動・学習プリント③>			
【備考】 ・プールでは、他の学級と同時学習が多く、練習場所が限られるので、片側通行や前の泳者との間隔など効果的に追究できるように工夫をする。 ・準備：体育ノート、ビート板、ヘルパー、防水デジタルカメラ、AEDなど			

単元	11 フィルダーベースボール		11月(8時間)
目標	互いに協力し、みんなが楽しめるルールや作戦を工夫しながら、ねらったところにボールを打って攻撃したり、守ったりして、フィルダーベースボールができる。		
評価規準	(①知・技) フィルダーベースボールの行い方を理解し、空いているところへ打ったり、ボールを捕った後ベースへ向かって投げたりできる。 (②思・判・表) みんなが楽しめるルールを考えたり、アウトにしたいベースへ動くなどの簡単な作戦を立てたりしている。 (③主体的態度) 規則を守り、互いに協力して公正にフィルダーベースボールをしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しのゲームを行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて _____ 練習して作戦を立て、ねらったところに打ったり投げてアウトにしたりして、フィルダーベースボール大会で優勝しよう	○フィルダーベースボールについての気付きやがんばっていききたいことを具体的にもてるように、「できるようになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。
追究する	4	活動① ○送球、捕球、バッティングのポイントを見付け、ドリルゲームを試行する。	○捕球や送球の動きのポイントを焦点化できるように、腰や足など体の部位を観点として提示する。 ○捕球や送球の動きを身に付けられるように、チーム内で繰り返し挑戦し、動きのポイントを伝え合う機会を設定する。 ○ねらったところへ打つためのポイントを見付けられるように、打つ位置を観点として提示する。 ○ボールを打つ動きを身に付けられるように、チーム内で繰り返し挑戦し、動きのポイントを伝え合う機会を設定する。
	2	○アウトにする守り方のポイントを見付け、タスクゲームを試行する。	○アウトにするベースを判断するポイントを見付けることができよう、「どこへ」「どのように」などの観点を基に話し合う機会を設定する。 ○自分たちで考えた作戦を成功できるように、作戦を繰り返し挑戦する時間を確保する。
まとめ	1	○フィルダーベースボール大会で、これまでのポイントを踏まえたフィルダーベースボールに挑戦し、学習のまとめをする。	○フィルダーベースボールの学習の成果を感じられるように、「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「フィルダーベースボールの楽しさ」という振り返りの視点を提示する。
【備考】 ・チーム編制：男女混合、グループ間等質の6グループ ・準備：ティー、バット、キッズハンドボール、得点板、ビブス、など ・ゲームについては、始めと終わりの挨拶をきちんと整列して行うようにする。 ・フィルダーベースボールについてのルールやコートやり方は、カリ管の資料を参照する。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇ねらったところへ投げてアウトにしようなど、具体的な自分のめあてを記述している。 <学習プリント③>

◇腰をひねって投げるや腰を落として捕球するなど送球や捕球のポイントを記述している。 <学習プリント②>

◇腰をひねって投げたり、腰を落として捕球したりする行い方を理解し、投げたり捕球したりすることができる。 <行動①>

◇ベースから離れて右へ打つなど、バッティングのポイントを記述している。 <学習プリント②>

◇打つ位置を変えて、ねらったところへ打つ行い方を理解し、打つことができる。 <行動①>

◇ボールの捕球した位置によってアウトにするベースを判断するというポイントを記述している。 <学習プリント②>

◇確実にアウトにするベースへ移動することができる。 <行動①>

◇自分や友達の動きのよさを記述している。 <学習プリント③>

単元	12 マット運動		11・12月(9時間)
目標	互いに励まし合い、両手をしっかりと押し出すなどの技の動きのポイントを見付けて、自己の能力に適した場で、開脚前転、開脚後転、首はね起き、頭倒立、側方倒立回転ができる。		
評価規準	(①知・技) 開脚前転、開脚後転、首はね起き、頭倒立、側方倒立回転の行い方を理解し、それぞれの技ができる。 (②思・判・表) 開脚前転、開脚後転、首はね起き、頭倒立、側方倒立回転における動きのポイントや自己の能力に適した課題を見付けたり、課題の解決のために考えたことを伝えたりしている。 (③主体的態度) 互いに励まし合い、安全に気を付けながら、開脚前転、開脚後転、首はね起き、頭倒立、側方倒立回転に取り組もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○開脚前転、開脚後転、首はね起き、頭倒立、側方倒立回転を試し、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて 友達と教え合いながら、それぞれの技の動きのポイントを見付けて、それぞれの技ができるようにしよう	○それぞれの技について気付きや頑張っていきたいことを具体的にもてるように、「できるようにになりたい動き」「学ぶ方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。
	1	○開脚前転、開脚後転の技の動きのポイントを見付け、それぞれの技に取り組む。	○開脚前転、開脚後転の技の動きのポイントと、実際に取り組んだ動きとを比較できるように、技の動きのポイントをまとめた連続図を提示する。
追究する	1	○技の動きのポイントを踏まえて、開脚後転に取り組む。	○開脚後転の技の動きのポイントに気付けるように、目標とする動きと「マットを押し出すタイミング」という視点を提示する。
	1	○技の動きのポイントを踏まえて、開脚前転に取り組む。	○開脚前転で足がマットに着く直前に足を開けるように、目標とする動きを基に、できばえを評価し合う機会を設定する。
	1	○首はね起き、頭倒立、側方倒立回転の技の動きのポイントを見付け、それぞれの技に取り組む。	○それぞれの技の動きのポイントと、実際に取り組んだ動きとを比較できるように、技の動きのポイントをまとめた連続図を提示する。
	1	○技の動きのポイントを踏まえて、首はね起き、頭倒立に取り組む。	○首はね起き、頭倒立の技の動きのポイントに気付けるように、目標とする動きと「体の反り」「マットに着ける体の部位と位置」という視点を提示する。
	1	○技の動きのポイントを踏まえて、側方倒立回転に取り組む。	○側方倒立回転で手、手、足、足の順でマットに着けるように、目標とする動きを基に、実際に取り組んだ動きのできばえを評価し合う機会を設定する。
	1	○これまでの技の動きのポイントを踏まえて自己の能力に適した場で、開脚前転、開脚後転、首はね起き、頭倒立、側方倒立回転に挑戦する。	○自分に合った課題に挑戦することができるように、これまでに見付けてきたそれぞれの技の動きのポイントを踏まえて、実際に取り組んだ動きのできばえを評価し合う機会を設定する。
	1		

ま と め る	I	○「4の○マット演技会」を開き、これまでの技の動きのポイントを踏まえて、それぞれの技を発表し、学習のまとめをする。	○マット運動の学習の成果を感じられるように、「できるようになった動き」「自分や友達の頑張り」「マット運動の楽しさ」という振り返りの視点を提示する。	◇開脚前転、開脚後転、首はね起き、頭倒立、側方倒立回転 をしている友達の動きのよさについて、記述している。 <学習プリント③>
------------------	---	---	---	---

【備 考】

- ・基礎感覚運動は、動物歩き（くま・うさぎ・アザラシなど）、かえるの足打ち、ゆりかご、壁倒立、ブリッジ、開脚、前・後転など
- ・発表会は、ふつうの場を原則とするが、個に応じて工夫した場で行ってもよい。
- ・準備：踏切板、跳び箱の頭、セーフティーマットなど
- ・練習の場（易しい場）：踏切板を使った場、マットを重ねて溝をつくった場、跳び箱の頭を置いた場、セーフティーマットの場など

単元	13 なわとび・かけ足		12・1月(9時間)
目標	きまりを守って友達と仲よくしながら、短なわとびや長なわとび、かけ足のポイントを見つけて、なわとび運動やかけ足ができる。		
評価規準	(①知・技) なわとびやかけ足の行い方を理解し、時間跳びや交差跳び、友達の動きに合わせて連続長なわのなわとび運動、4分間のかけ足ができる。 (②思・判・表) 運動の行い方を知り、よい動きを見付けたり、選んだりして、かけ足や自分のなわとび運動に取り入れている。 (③主体的態度) 規則を守り、互いに励まし合って、用具の安全を確かめながら進んでかけ足やなわとび運動に取り組もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しのかけ足、交差跳び、連続長なわを行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 共通のめあて _____ かけ足やなわとびに挑戦し、4分間走り抜いたり、交差跳びや長なわをしったりしよう	○かけ足やなわとびについての気付きやがんばっていきたいことを具体的にもてるように、「できるようにになりたい動き」「学び方」「楽しく安全に運動するためにできること」の視点を提示する。
追究する	7	活動① ○4分間のかけ足のポイントを見付け、挑戦する。 活動② ○短なわの交差とびや連続長なわとびのポイントを見付け、挑戦する。	○短なわとびの動きのポイントを焦点化できるように、手や足などの体の部位やリズムという観点を提示する。 ○リズムよく手首を使って回すことができるように、見本の子ども動きを基に、交差跳びの動きのポイントを伝え合う機会を設定する。 ○長なわとびの動きのポイントを焦点化できるように、タイミングという観点を提示する。 ○タイミングよく入り長なわ跳びができるように、見本となる子ども動きを基に、動きのポイントを伝え合う機会を設定する。 ○かけ足の動きのポイントに気付けるように、目線や姿勢、腕振りという観点を提示する。 ○一定のペースでかけ足をするためのポイントを知ることができるように、動きのポイントを伝え合う機会を設定する。 ○互いのよい動きを取り入れることができるように、情報機器を使って挑戦しながら見合い伝え合う機会を設定する。
まとめる	1	○挑戦会で今までのポイントを踏まえたかけ足や交差とび、連続長なわとびに挑戦し、学習のまとめをする。	○なわとび・かけ足の学習の成果を感じられるように、「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「なわとび・かけ足の楽しさ」という振り返りの視点を提示する。
評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇走り方や跳び方、時間などについて、具体的な自分のめあてを記述している。 <学習プリント③> ◇短なわとびの動きのポイントや友達のよい動きを見付けている。 <学習プリント②> ◇一回旋一跳躍の跳び方を理解し、交差跳びができる。 <行動①> ◇長なわとびの動きのポイントや友達のよい動きを見付けている。 <学習プリント②> ◇人やなわのタイミングに合わせることを理解し、長なわ跳びができ。 <行動①> ◇一定のリズムで呼吸するなどかけ足の動きのポイントや友達のよい動きを見付けている。 <学習プリント②> ◇ポイントを踏まえた動きを理解し、4分間で走り続けることができる。 <行動①> ◇力を入れない腕振り等の友達のよい動きを見付け、自分のかけ足に取り入れたり、記述したりしている。 <学習プリント②> ◇自分や友達の動きのよさを記述している。 <学習プリント③>			
【備考】 ・短なわやかけ足では、リズムやタイミング、ペースの取り方などを2人組で行い、見合い・教え合いながらするようにする。長なわ跳びでは、グループで回数の競争を行うようにする。			

単元	14 シュートプレルボール		1・2月(9時間)
目標	互いに協力して、簡単な作戦を選びながら、プレルしたり、シュートしたりして、シュートプレルボールができる。		
評価規準	(①知・技) シュートプレルボールの行い方を理解し、ボールを操作しやすい位置に移動してプレルしてボールをつないだり、相手コートへシュートしたりすることができ る。 (②思・判・表) プレルやシュートの動きのポイントを見付けたり、簡単な作戦を選んだり、チームの課題の解決のために考えたことを伝えたりしている。 (③主体的態度) 規則を守り、互いに協力したり、勝敗を受け入れたりして、公正に試しのゲームやシュートプレルボールに進んで取り組もうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しのゲームを行い、共通のめあてや自分のめあてを立てる。 ー 共通のめあて _____ ポイントを見付けて、プレル、シュート、ボールを持ってないときの動きを身に付け、シュートプレルを楽しもう	○シュートプレルボールにおける具体的なめあてを立てられるように、「できるようにになりたい動き」、「学び方」、「楽しく安全に運動するためにできること」という視点を提示する。
			◇プレルやシュートの仕方や攻め方についての具体的な自分のめあてを記述している。 <学習プリント③>
追究する	1	○プレルする動きのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○プレルする動きのポイントに気付けるように、「ボールを受ける場所」「体の向き」「バウンドさせる位置」の視点を提示する。
	1	○シュートする動きのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○シュートする動きのポイントに気付けるように、「体の向き」「バウンドさせる位置」「足」の視点を提示する。
	1	○守りの位置取りの動きのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○コースに応じて守りの位置取りを想定できるように、ボールと守りの人のコマと、コートを示した作戦板を用意する。
	1	○ボールを持たないときの動きのポイントを見付け、ゲームに取り組む。	○ボールを受けるときのポイントに気付けるよう、「体の向き」「3人の間隔」を視点として提示する。
	2	○選んだ作戦を試し、練習する。	○簡単な作戦を選ぶことができるように、複数の作戦例を提示する。
			◇ボールを操作しやすい位置に移動し、プレルする方向を向くなどの動きのポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇自コートの半分より前で、強くシュートするなどの動きのポイントを記述している。 <学習プリント②> ◇相手のシュートに応じて、ボールを操作しやすい位置に移動している。 <行動①> ◇1人目がボールをプレルした方向に体を向けて、プレルをしやすい位置に移動している。 <行動①> ◇選んだ作戦を試して考えたことを、仲間に伝えている。 <行動②>
まとめ	2	○シュートプレルボール大会を行い、学習のまとめをする。	○学習の成果を実感できるように「できるようになったこと」「自分や友達のがんばり」「シュートプレルボールの楽しさ」という振り返りの視点を提示する。
			◇自分や友達の動きのよさを認め合うよう発言したり、記述したりしている。 <発言・学習プリント③>

単元	15 表現運動		2・3月(7時間)
目標	友達と関わり合い、題材の特徴に合わせた動きを工夫しながら、簡単なひと流れの動きを体全体で表現できる。		
評価規準	(①知・技) 題材の特徴に合わせた表したい内容に合った動きを中心に、ひと流れの動きを体全体で表現できる。 (②思・判・表) 題材の特徴に合わせた表したい内容に合った動きを見付け、速く・ゆっくり、メリハリなど、表現の仕方を工夫している。 (③主体的態度) 互いのよさを認め合って、関わり合いながら気持ちを合わせて「〇〇探検・・・出発」を表現しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○試しの表現運動を行い、共通のめあてと自分のめあてを立てる。 共通のめあて 友達と協力して、動きを工夫しながら『〇〇探検・・・出発』の簡単なひとまとまりの表現づくりに取り組み、体全体で表現しよう	○工夫しながら題材に合った動きに挑戦していくこと具体的なめあてを立てられるように、試しの表現運動をして気付いたことや感想を振り返る機会を設定する。
追究する	3	活動① ○小テーマの特徴的な動きを、即興的に踊る。 (例) 「大きい、小さい」 「いろいろな姿勢」 「速く、ゆっくり」 ----- 活動② ○テーマに合った動きを工夫して、表現運動を行う。 1時間目…ジャングル探検 2時間目…海底探検 3時間目…宇宙探検	○ジャングル探検のイメージに合った動きのポイントを焦点化できるように、動きの大きさを観点として提示する。 ○海底探検という題材に合わせた動きの工夫を考えられるように、グループ内で繰り返し挑戦し、動きのコツを伝え合う機会を設定する。 ○宇宙探検という題材に合わせた動きの工夫を考えられるように、グループ内で繰り返し挑戦し、動きのコツを伝え合う機会を設定する。
	2	○グループで表したい「〇〇探検・・・出発」を簡単なひと流れの動きとして仕上げ、発表会に向けて練習する。	○題材の特徴に合わせた動きを意識して挑戦することができるように、これまでに工夫してきたテーマに合った動きができているかどうかを評価する機会を設定する。
まとめる	1	○共通のテーマ「〇〇探検・・・出発」で簡単なひと流れの表現の発表会をする。	○簡単なひと流れの発表をすることができたという達成感を味わえるように、これまで身に付けてきた動きや互いに協力して頑張れたことなどを振り返る機会を設定する。
【備考】 ・表現では、グループを中心に即興的な動きやイメージを大切にしながら、動きづくりをしていくようにする。 ・準備：ビデオ、リズム太鼓、CD など ・表現小テーマカードは体育館倉庫に保管してある。			

評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」

◇試しの表現遊びに組み、身近な生活経験を表現しようなど、具体的な自分のめあてを記述している。
<学習プリント③>

◇「ジャングル探検」の場面からイメージに合った特徴を表す大きい小さいのような動きの工夫を記述している。
<学習プリント②>

◇「海底探検」の場面を基に、題材の特徴に合わせたいろいろな動きを体全体を使って表現できる。 <行動①>

◇「宇宙探検」の場面を基に、題材の特徴に合わせたゆっくりや速い動きを体全体を使って表現できる。 <行動①>

◇自分たちで選んだ「〇〇探検・・・出発」の場面を基に、題材の特徴に合わせた動きを体全体を使って表現できる。
<行動①>

◇「〇〇探検・・・出発」を表現した自分や友達の動きのよさを記述している。
<学習プリント③>

単元	16 育ちゆく体とわたし			3月(5時間)
目標	自分の体の発育・発達について関心を持ち、体の変化や発育・発達について理解する。			
評価規準	(①知・技) 思春期における体の変化や個人差, よりよい発育・発達のための生活の仕方を理解する。 (②思・判・表) 体の発育・発達について, 課題の解決へ向けて自分の生活と関わらせながら, 実践的に考え, 判断し, 表している。 (③主体的態度) 自分の体の発育・発達に関心を持ち, 学習に取り組もうとする。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○身長や体重の変化について調べたり, 話し合ったりする。	○自分の体の変化について関心をもてるように, 「1年次と4年次の発育のようす」を基に, この先のグラフの様子を予想する機会を設定する。	◇ 自分の体の変化に関心を持ち, 進んで話している。 <発言③>
追究する	1	○思春期における体つきの変化について話し合う。	○思春期の男女の体つきの違いについて考えることができるように, 体つきの違いを表した掛け図を提示し, 比較して気付いたことを話し合う機会を設定する。	◇ 思春期の男女の体つきの変化の仕方やその個人差について考えたことを記述している。 <学習プリント②>
	1	○思春期における体の中や心の変化について話し合う。	○思春期の体の中の変化と心の変化について視覚的に捉えることができるように, 体の仕組みについての図を提示する。	◇思春期の男女の体の中や心の変化やその個人差について理解することができる。 <学習プリント①>
まとめる	2	○体をよりよく発育・発達させるために大切なことについて話し合い, まとめのテストを行う。	○体がよりよく育つために自分が取り組むことへの思いをもてるように, 日常生活で実践できる健康に関わる内容について話し合う機会を設定する。	◇ 体の変化やよりよい生活の仕方について, これから取り組みたいことを学習プリントに記述している。 <学習プリント①>
【備考】 ・担任が中心として授業を行い, 2・3時間目は, 養護教諭とのT・Tを取り入れるとよい。 (3時間目の体の中や心の変化については, 男性, 女性両方の立場で体験談等を話せるようにするとよい。授業の際に使用する図は, 養護教諭と相談するとよい。) ・準備: 1年次と4年次の発育のようす(C4+h) ・2時間目の体つきの変化で使用できる図等は体育部保管				